

学校関係者評価様式 9 【評価報告書】

平成29年7月31日

呉竹鍼灸柔整専門学校
校長 小林 賢次 殿

学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会報告

平成28年度自己点検・自己評価結果に基づき、下記のとおり学校関係者評価を実施したので、その結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

<業団等の役職員・有識者>

- ① 和田 秀樹 (公益社団法人 神奈川県柔道整復師会 会長)
- ② 伊勢山 竹雄 (社団法人 神奈川県鍼灸マッサージ師会 会長)
- ③ 清水 慎司 (公益社団法人 神奈川県鍼灸師会 会長)

<企業等の役職員>

- ④ 戸畑 智秋 (ちあき接骨院・ちあき鍼灸マッサージ院 院長)
- ⑤ 三田 正樹 (樹はりきゅう院 院長)
- ⑥ 木ノ内 秀樹 (田子浦鍼灸接骨院 院長)

<卒業生>

- ⑦ 吉田 達矢 (呉竹鍼灸柔整専門学校呉竹会 会長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第1回委員会 平成29年2月22日 (呉竹鍼灸柔整専門学校 1階・会議室)
第2回委員会 平成29年6月29日 (呉竹鍼灸柔整専門学校 1階・会議室)

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

I 重点目標について

1 重点目標①について

【重点目標①】 専修学校の質保証のための第三者評価認証の申請準備

呉竹鍼灸柔整専門学校では、将来的に第三者評価を受けるための準備を進めている。そのために、学内諸規程等の整備、文書主義の浸透、事業計画の策定、業務フローの改善など、内部統制の改革に着手している。学校の質を担保するために教育活動のPDCAに取り組むとともに、引き続き第三者評価の準備をお願いしたい。

2 重点目標②について

【重点目標②】 学習成果の指標となる国家試験合格率、就職率、中途退学率等に対する数値目標の設定、計画、管理、評価体制の構築

学習成果の指標の1つである資格取得率は毎年高い水準の合格率を維持しているが、就職支援、中途退学の抑止、学生満足度等において課題を残している。職業学校は、資格取得率だけでなく就職率や中途退学率等も重要な評価の指標となっているため、より質の高い教育を目指して、これらの課題が解決されることを期待する。

(1) 平成 28 年度国家試験合格率：

- ・あん摩マッサージ指圧師 100%
- ・はり師 96.1%
- ・きゅう師 98.7%
- ・柔道整復師 92.9%

(2) 平成 28 年度就職率： 95.6%

(3) 平成 28 年度中途退学率： 6.6%

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・人材育成像

教育理念、目的、育成人材像等は教務規程に定められており、学校案内、ホームページ、学校生活の手引き等で周知されている。ただし、これらの浸透度の確認は行われていないため、今後の課題となっている。

育成人材像は業界等の人材ニーズに適合するように、教育課程編成委員会にて検討を行っている。

中期的な将来構想については文書に示されていないため、理念等を達成するための具体的な将来構想を示すとともに、業界や保護者に対して周知をお願いしたい。

2 学校運営

学校運営は、理事会、校長会の決定に基づき行われており、運営方針については事業計画に定められている。

設置法人の運営組織は、寄付行為に基づく理事会及び評議委員会で構成されており、学校運営の組織は、学則及び組織規程に基づき運営されている。意志決定は、担当責任者会議、入試委員会、成績判定会議などの各会議の議を経て校長が決定している。

人事・給与については、採用や人事考課の基準、評価方法、昇給等に関して規定されていないため、今後の検討課題となっている。

情報システム化については、呉竹学園の各拠点にサーバーが設置され、学内専用の共有ネットワークが構築されている。また、学生募集、就職支援、成績集計、経理処理等にはシステムが導入され、業務の効率化や姉妹校間の情報共有化が図られている。一方で、必要なセキュリティー対策は施されているものの、年々手口が巧妙化する悪意のある外部からの攻撃への対応が急がれる。

3 教育活動

教育活動は、教育目標、教育方針及び育成人材像に基づき行われており、更に教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会での意見等を踏まえて、業界ニーズに関連付けて展開されている。また、学生による授業評価アンケート及び学生満足度調査を毎年度実施し、教育活動の成果の把握に取り組む一方、これらの課題の改善については組織的な議論に持ち込めていないため、今後の検証に期待する。併せて、教員相互の授業参観の

実施もお願いしたい。

キャリア教育については、臨床教育の強化を掲げているが、カリキュラム及び教員資格の制限があるため、法令に基づかない教育内容については正課の授業として実施できないことがネックになっている。今後は学校としてのキャリア教育の定義、方法等について検討をお願いしたい。

成績評価及び資格取得の指導については、規定に基づき厳正に行われており、資格取得の結果も伴っている。また、これらを指導する教員の資質向上については、同学園内に設置された教育センターによるFD活動、学校協会主催の教員研修会、学会・業団等の勉強会に組織的に参加することで、教員の能力開発、スキルアップを図っている。

4 学修成果

平成28年度の就職希望者の卒業後2ヶ月以内の就職率は95.6%と良好であり、卒業生によるキャリアガイダンスや就職相談会などの就職支援が行われている。一方で、国家試験中心の指導になっているため学生の就職への意識が高まっていないことや、開業志向の強い既卒社会人の比率が高かったため、就職活動の支援のノウハウが十分蓄積されていないこと、スポーツ・美容・不妊治療・介護などの就職先の確保などが課題となっていることから、組織的且つ計画的に学生の就職支援体制を構築し、卒業前の就職率向上に取り組んでいただきたい。

資格取得については、長年に渡る指導ノウハウによって、毎年全国トップクラスの合格実績を上げている。

卒業生の社会的評価については、校友会組織「呉竹会」や学園独自の呉竹医学会等を通して情報共有を図っている。

5 学生支援

就職支援は事務局を中心に求人紹介、就職相談会等が開催されている。就職活動を経験したことがない学生も増えていることから、就職支援を学生指導の一環として位置付けていく必要がある。さらに履歴書の書き方や職場見学や面接などのマナー指導を行うとともに、就職部門を組織化して学生の就職活動を後押しすることが望まれる。

退学率の低減については、医療系の勉強についていくことが困難となり、学業成績不良から退学になるケースが多くなっているため、キャリアガイダンスや面談、補習等による個別フォローアップや学習支援の対策が講じられている。

経済的支援体制では、学校独自の奨学金制度、授業料減免制度、特待生制度が設けら

れており、学生への経済的支援制度の拡充が図られている。

学生の健康管理においては、法令に基づき毎年度健康診断及びレントゲン検診が行われている。また、校内での万が一の事故に備え、学生傷害災害保険にも加入している。

課外活動の支援については、古典研究会が唯一の同好会で、その他のサークル活動は行われていない。若い学生も増えている為、スポーツ系のサークル活動の支援も望まれるが、マンパワーと労務の問題をどのように解決するかが課題となっている。

保護者との連携体制については、主に学業成績や学費納入等について個別に対応されている。保護者会は開催していないが、入学後に学校行事等の案内を送付している。

卒業生への支援では、校友会組織「呉竹会」主催の講演会や懇親会が開催されている他、臨床に役立つスキルを身につけるための卒後臨床講習会が定期的開催されている。

6 教育環境

校舎の施設・設備は、すべて関係法令の基準に適合したものになっており、必要な点検、更新工事が実施されている。図書室には5,000冊以上の蔵書があるが、1万冊を目標に毎年予算を組んで200~300冊の図書が定期的に購入されている。

インターンシップは実施されているものの、正課の授業として取り扱えないため学生参加率は低い。平成30年度から学外実習が単位として認められることから、今後に期待したい。

防災に関しては、消防計画に基づき防災訓練を実施するとともに、災害時における飲料水、非常食、その他の防災用品が備蓄されている。さらに、学校安全計画に基づく校舎施設設備の定期点検をはじめ、危機管理マニュアルの配付、防犯カメラの増設設置、保険の加入等により、万が一のリスク発生時の対応方法や対策が施されている。

7 学生の募集と受入れ

学生募集活動、入学選考、学納金などは適正に対応されており、高校進路ガイダンス、高校訪問、学校説明会などにも教職員総出で精力的に取り組まれている。一方で、養成施設の乱立、少子化等により募集状況は厳しくなっており、学生の基礎学力も問題となっていることから、事前説明や選考方法、入試制度などについて検討が必要である。

8 財 務

新横浜に校舎を移転後、借入金がなく繰越利益金もプラスで推移しているため、中期的に安定した財務基盤となっている。財務状況については理事会にて監査報告を受けており、財務諸表はホームページにて公開されている。課題としては、入学者数の減少により減収傾向にあるため、持続的な収入確保、経費節減等について議論を深めていただきたい。

9 法令等の遵守

関係法令に従い適切な学校運営がなされている。個人情報のデータの取り扱いについては、情報漏洩へのリスクに対して対策が講じられているが、年々高度化、悪質化する脅威についての対策も急がれる。

学校評価については、自己点検自己評価の結果に基づき、学校関係評価が実施されており、その結果をホームページに公表している。

10 社会貢献・地域貢献

地域貢献として、学園祭でのチャリティー鍼灸、チャリティーマッサージが毎年開催されており、すぐに予約が埋まるなど地域の方々から好評を得ている。このような地域交流の活動は業界の認知、活性化にもつながるため、今後も継続的な活動をお願いしたい。

学生のボランティア活動では、神奈川県体育協会主催の陸上競技やハンドボール大会におけるメディカルサービスステーションのボランティアスタッフとして協力をしている。スポーツを通じたボランティアは、社会貢献のみならず学生自身の勉強にも役立つため、積極的なボランティア活動の支援をお願いしたい。

以上